

## 【基本的運営方針】 A 優れた作品の収集と保管

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
コレクションの活用状況	コレクションの稼働率	14.6%	12.0%	82.2%	c	・常設展(年3回展示替え)、特別所蔵品展(年2回)、ホール・野外での常設のほか、教育普及事業(出張アート教室)において活用を図ったが、目標は達成できなかった。
	所蔵作品を他の美術館企画展で活用					・貸出点数32点:網走市立美術館「現代の書へー「金子鷗亭展」に金子鷗亭の作品「宮沢賢治詩雨ニモ負ケズ」ほか計30点、山口蓬春記念館「北海道の大自然が生んだ山口蓬春・新日本画の魅力」展に山口蓬春の作品2点の貸出しを行った。
コレクションの充実度	収集方針に基づき、主体性を持ち積極的に収集活動を行う				b	・購入1作品(日本画1)、受贈:31作品(水彩・素描25、版画1、書4、写真1) ・地域の所蔵者やアートギャラリー北海道の連携施設との密接なコミュニケーションを図ることにより、購入・受贈での収集につなげることができた。とりわけ歴史的な価値が高い貴重な江差屏風の購入など、当館コレクションの充実を図ることができた。 ・「文字と記号に関わる現代美術」のテーマについては、寄贈の可能性が低いことから、引き続き、現在活躍中の作家や近年亡くなった作家の遺族とのコミュニケーションを深めることなどにより、収集につなげていく必要がある。
保管状況の適切さ	適正な保管環境を保持し、必要な調査に基づき措置を行う 計画的に所蔵作品の修復を行う				b	・第1・第2収蔵庫において、油彩や書を中心に一部作品の点検を実施した。点検では、作品の状態等を確認や整理を行うとともに、作品のキャプションの確認等を合わせて行い、必要に応じてキャプションの修正等も行った。これらの取組により収蔵庫内の整理整頓が図られ、作品保管状況の改善につながったが、作品点数が多いため、今後も取組の継続が必要である。 ・作品保全のため、一部作品について、薬剤を用いた燻蒸処理を実施した。 ・定期的な作業として、月に1度の虫害トラップの設置と捕虫状況の確認、年2回の収蔵庫の清掃、荷解室入口・収蔵庫入口・トラックヤード上がり口への粘着シートの設置などを行った。

## 【基本的運営方針】 Aの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	コレクションの活用については、常設展及び特別所蔵品展などにおいて、多くの作品を展示するとともに、他の美術館等に32点の作品を貸し出すことができた。作品の収集については、地域の所蔵者やアートギャラリー北海道連携施設との密接なコミュニケーションを図ることで、歴史的価値の高い江差屏風をはじめ、32作品を購入・受贈により収集できた。 収蔵庫内の作品保管状況については、学芸員による点検等の実施により、適正な保管環境を確保することができた。

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

## 【基本的運営方針】 B 多彩で特色ある展示活動の充実

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
常設展示の充実度	常設展示観覧者数(人)	19,000人	13,178人	69.4%	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度、リピート率とも概ね目標を達成している。</li> <li>・観覧者数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響(臨時休館等)により、目標を達成できなかった。</li> <li>・北海道リモート・ミュージアムの取組として、臨時休館期間中に常設展示の一部作品を紹介する動画を作成・公開したが、今後とも常設展示への興味・関心を高めるための取組の継続が必要。</li> </ul>
	常設展示観覧者の満足度(%)	67.8%	82.1%	121.1%		
	常設展示のリピート率(%)	61.8%	66.7%	107.9%		
特別展示の充実度	特別展示の観覧者数(人)	27,000人	21,294人	78.9%	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観覧者数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響(臨時休館等)により、目標を達成できなかった。</li> <li>・様々な世代の興味・関心を高める展覧会企画により、満足度、リピート率とも目標を上回っている。</li> </ul>
	特別展示観覧者の満足度(%)	90.3%	90.8%	100.6%		
	特別展示のリピート率(%)	65.7%	67.6%	102.9%		
入館者の拡充	美術館の魅力を広め入館者増につながる取組の実施				C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当館単独での取組に加え、五稜郭地域の文化施設を含むアートギャラリー北海道連携施設との協働による事業(相互割引等)を実施し、来館者数の底上げを図ったが、新規事業として実施予定だったスタンプラリーは臨時休館等で十分な期間が確保できなくなったことから今年度は中止とした。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響で外国人の入国が制限される中、函館港クルーズ客船入港予定が全てキャンセルとなり、入港に合わせた特別展のちらし等の配布を函館市に依頼する取組は中止せざるを得なかった。</li> <li>・今後は、引き続き、アートギャラリー北海道連携施設との取組を充実させるなどして、地域全体の魅力をPRし、来館者の底上げにつなげていく必要がある。</li> </ul>
展示の状況	展示のねらいが効果的に表現できているか				b	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いずれの展覧会においても、分かりやすい展示と説明文、解説文等の充実に取り組んでおり、来館者アンケートの結果からも、展覧会ごとに展示のねらいを効果的に伝えられたと考える。</li> </ul>
館外展示の充実度	移動美術館入場者満足度	設定なし			d	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館外展示の充実については、今後検討していく。</li> </ul>
	その他の館外展示の状況					

## 【基本的運営方針】 Bの評価

評価	コメント(評価の考え方)
C	<p>新型コロナウイルス感染症感染拡大による臨時休館等の影響で、観覧者数が目標を達成できなかったほか、感染防止策等から取組の内容が制限され、当初の予定から取組の中止や内容の変更をせざるを得なかった。</p> <p>特別展示は、テーマを踏まえた展示の工夫、展覧会に関連づけた教育普及事業の充実などにより、リピーター増につながっている。</p> <p>依然として、特別展示と常設展示の観覧者数に大きな差が出ていることから、特別展示から常設展示の観覧につなげるため、今後とも、常設展示への興味・関心を高めるための取組の工夫が必要。</p>

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

## 【基本的運営方針】 C 豊かな人間性を育む学習の場と美術情報の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
教育普及事業の充実度	教育普及プログラムの実施数	97回	42回	43.3%	C	<p>・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、当初計画していた事業の中止や回数・内容等の変更を余儀なくされたが、事業ごとに定員制を導入したり、これまで展示室内で実施してきたギャラリー・ツアーやファミリー・ツアーといった学芸員による解説を、講堂で行う見どころ解説やキッズ・ツアーに変更したりするなど、感染防止に万全を期した。また、展覧会の内容に応じたワークショップや美術映画会の開催など、子どもから大人まで様々な世代を対象とした事業を企画し、多様な学習機会を提供した。</p> <p>・上記のとおり、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、事業の中止や回数減の対応をせざるを得ず、実施数については、目標を達成できなかった。</p>
	教育普及プログラムの参加者数(人)	7,865人	3,749人	47.7%		
	教育普及プログラムの満足度(%)	94.8%	98.6%	104.0%		
	教育普及事業の状況					
美術情報提供の充実度	ARS、図書コーナーの利用者件数	1,538人	3人	0.2%	C	<p>・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度は、4月6日以降、図書コーナーを休止としたため、利用者件数はごく少数となった。</p> <p>・ホールや展示室内に設けていた展覧会関連図書の閲覧コーナーについても、感染拡大防止のため、撤去した。</p> <p>・展覧会や教育普及事業開催に係る記事の積極的な掲載により、アクセス数は高い水準を維持している。</p> <p>・教育普及事業の案内や実施状況等をFacebook及びTwitterに投稿し、可能な限り情報提供に取り組んだ。</p> <p>・上記以外では、道民カレッジ連携講座、HAKODATEまなびつと広場に各種事業を登録。また、報道機関(新聞社、テレビ局、ラジオ局)へのPRを行い、積極的な報道協力を得ている。</p> <p>・新型コロナウイルスの影響で外国人の入国が制限される中、函館港クルーズ客船入港予定が全てキャンセルとなり、入港に合わせた特別展のちらし等の配布を函館市に依頼する取組は中止せざるを得なかった。</p>
	ARS、図書コーナーの利用者満足度(%)	70.1%	58.1%	82.9%		
	多くの来館者が利用できる図書コーナーの環境整備・保持					
	HPアクセス件数	98,686件	172,460件	174.8%		
	メールマガジン等発行回数	実施なし				
	ソーシャルメディアの投稿数	96回	72回	75.0%		
	情報発信の状況					

## 【基本的運営方針】 Cの評価

評価	コメント(評価の考え方)
C	教育普及事業の充実については、新型コロナウイルス感染防止策を講じながら、展覧会の内容に応じた多彩なプログラムの実施により、一定以上の成果が得られている。 ホームページ等を活用した情報発信等により、美術館情報の発信に係る充実度が高い。

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

## 【基本的運営方針】 D 活動の基礎となる調査・研究の推進

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
調査・研究の 充実度	学芸員による調査報告				C	・作家資料や図書資料等については、継続的に収集し、その充実を図っている。
	二次資料の状況					

## 【基本的運営方針】 Dの評価

評価	コメント(評価の考え方)
C	美術館活動の推進のため、各分野における調査・研究に着実に取り組み、その充実に向け、より一層努めていく。

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

## 【基本的運営方針】 E 地域文化の振興

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
地域の関係機関との連携状況	ボランティア団体等の主体的な事業の参加者数	302人	145人	48.0%	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会ごとに開催するボランティア向けの「美術研修会」(4回)に多くのボランティアの参加があった(新型コロナウイルス感染拡大の影響で、5回開催予定のうち1回中止)。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ボランティア研修会については中止。</li> <li>・地元高校の地域探求学習の一環として、高校生を受け入れ、教育普及事業の運営補助として積極的な協力を得た。</li> <li>・日常的な指導・助言、役員との密接な打合せ、協働企画などを積極的に推進。</li> <li>・事業の運営や講師等に地域の人材が関わり、活動の場として提供することができた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大の状況下において、可能な範囲でアートギャラリー北海道連携施設等との連携事業を継続実施したが、当初計画していた取組の多くを中止又は内容変更せざるを得なかった。</li> <li>・上記のとおり、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、研修会の中止や回数減から、ボランティア団体等の主体的な事業の参加者数は、目標を達成できなかった。</li> </ul>
	ボランティアが活動しやすい場の提供					
	地域と連携した取組の状況					
学校との連携の状況	キャンパスパートナーシップのメンバー校数	1校	1校	100.0%	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道教育大学函館キャンパスのみ。今後、新たな提携先の掘り起こしが必要。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、令和2年度からメンバー校となる予定だった1校は当面見送りとなった。</li> <li>・実施校の規模により参加者数は目標を下回っているが、函館市内の小学校1校で実施した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、夏季及び冬季休業期間中に1回ずつ予定していた指導者研修は中止となったが、展覧会ごとに開催の「教員のための鑑賞研修」は、年5回予定のところ、4月の1回目を除き、4回開催することができた。</li> <li>・小学校:解説 7件</li> <li>・中学校:解説 7件</li> <li>・高等学校:解説 3件</li> <li>・特別支援学校:解説 0件</li> <li>・大学:博物館学講座 0件</li> <li>・出張アート教室は、実施校から高い評価を得ている。</li> <li>・教員のための鑑賞研修についても、参加者の満足度が高い。</li> </ul>
	出張アート教室の延べ参加者数	76人	62人	81.6%		
	指導者研修の延べ参加者数	54人	57人	105.6%		
	学校教育活動への対応数	19件	17件	89.5%		
	参加者・利用者満足度					

## 【基本的運営方針】 Eの評価

評価	コメント(評価の考え方)
C	地域・学校との連携・協働については、コロナ禍の影響がある中で、取組の中止や内容変更、定員制の導入等が必要となったが、可能な限り、働きかけや活躍機会の提供等を行い、成果を上げている。

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

## 【基本的運営方針】F 良好な滞在環境の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
附帯施設の充実度	カフェ利用者の満足度(%)	63.9%	50.0%	78.2%	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度は、4月6日以降、カフェを休止とした。</li> <li>年度中途において、ミュージアムショップの運営主体であるボランティア団体において、ショップにレジスターを導入し、運用が開始された。</li> <li>日常的に美術館とボランティア団体役員との連絡を密に取り両者の連携により、新型コロナウイルス感染拡大防止策を含む諸課題の解決に取り組んだ結果、満足度は目標値を大きく上回った。</li> </ul>
	ミュージアムショップ利用者満足度(%)	67.4%	70.2%	104.2%		
	事業者と協力してのサービス向上の実践					
館のホスピタリティ	館内スタッフの対応に関する利用者の満足度(%)	85.8%	88.6%	103.3%	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染防止策として、十分な換気やマスク着用・咳エチケット・手指消毒等の要請、館内各所への消毒液の設置、コンコースへのサーモグラフィ装置の設置、手を触れる場所・貸出用ベーカー・貸出用車椅子等の消毒の徹底などを実施し、来館者の安全確保に努めた。</li> <li>これまで子育て世代も利用しやすい環境の整備を進めてきたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ファミリータイムは優待割引のみの実施とし、絵本コーナーは休止とした。</li> <li>アンケートの結果について、スタッフで随時情報共有することにより、来館者対応時の課題意識を高め、改善に役立てた。</li> <li>新型コロナウイルス感染拡大の影響で、外国からの入国制限により、令和2年度における外国人の来館者は少ない状況であったが、外国人来館者のホスピタリティ向上を図るため、令和元年度に整備した館内の観覧料(デジタル表示)、各案内表記及び屋外の掲示板等の英語表記に加え、新たに作家解説の英語表記を作成した。</li> </ul>
	ホスピタリティ向上に向けた取組					
施設環境の保持	施設内外の環境への満足度(%)	81.1%	69.9%	86.2%	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の安全管理のため、日常の点検や巡回等により随時確認を行っている。</li> <li>設備については、委託業者と緊密に連絡を取りながら、補修箇所を確認し、必要に応じて補修工事を実施している。</li> <li>業務委託の警備員・清掃員・設備管理員やボランティアと連携しながら、避難訓練(火災)を実施しているほか、安全管理マニュアルによる危機管理の徹底を図っている。</li> </ul>
	施設安全性保持のための必要な措置					

## 【基本的運営方針】Fの評価

評価	コメント(評価の考え方)
C	特別展に合わせた物販や外国人来館者に配慮した作家解説の英語表記作成など、社会教育施設としてのサービス提供及びホスピタリティ向上に努めた。ボランティアに対する啓発活動を継続してきた結果、接客意識の醸成やサービス向上に繋がりを、ミュージアムショップ等利用者の満足度が高まった。施設の安全性を確保するため、施設設備の老朽化などの課題を踏まえ、計画的かつ効率的に修繕を行う必要がある。

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E